

パナソニック PD 成功事例

仕事の仕方改革、バーチャル大部屋導入により、労働生産性を 33%向上

概要

企業

- パナソニックプラズマディスプレイ株式会社

業種

- 電気機器メーカー

チャレンジ

- 世界市場で競争が激化するなか、収益改善に取り組み、パネル構造改革や、非テレビ事業推進(業務用途の拡大など)などをすすめられています。

ソリューション

- プラズマディスプレイの開発部門である技術部門を対象として、仕事のやり方(ワークスタイル)の見直しおよび IT 活用により、抜本的な労働生産性向上を実現することを目標にプロジェクトを実施しました。
- シスココンサルティングのプロジェクトを通して、顧客の視点に立った、業務のゼロベースでの見直しを行いました。改革の打ち手の検討、決定、実行においては、日本企業の文化の根幹である社員の当事者意識の尊重を基本に据え、業務を遂行する当事者本人に分析、評価、判断していただきました。また、IT を活用することにより、実現性を担保しました。

結果

- 33%の労働生産性向上、25%の作業時間削減をもたらす改革機会を洗い出し、即日実行に移すことができました。

課題

パナソニックプラズマディスプレイ株式会社は、大阪府茨木市、兵庫県尼崎市に拠点を置く、プラズマディスプレイ、プラズマテレビおよび関連部品のメーカーです。

パナソニックは、収益性の悪化しているテレビ事業について、パネル構造改革や非テレビ推進(業務用途の拡大など)などにより経営改革をすすめることを明らかにされました。またそこへ先進的な IT を適用することによって、仕事の仕方を抜本的に改革できるバーチャル大部屋などの作業環境構築に、シスコとの協業の機会を見つけることができました。

ソリューション

パナソニックプラズマディスプレイは、シスコのグローバル戦略コンサルティング組織である シスコ コンサルティングから、労働生産性を抜本的に向上させる先進的な仕事の仕方(ワークスタイル)への改革を提案され、プロジェクトを実施することになりました。プロジェクトではシスコ コンサルティングのワークスタイル改革方法論に基づき、次のような手順で作業を進めました。

- 業務プロセスの分析
- 生産性向上改革改善機会の同定
- 有効な生産性向上改革改善方策の洗い出し
- 方策の実施と結果検証

すべての業務プロセスを顧客の視点に立ち、価値を生んでいるか否かで分類し、このうち、価値を生んでいない業務を改廃することとなりました。シスコ コンサルティングの提案する改革原則に基づき、業務の見直しや効率化方策の適用により、仕事の仕方(ワークスタイル)を改革し、生産性向上を図っていきました。

対象としたパナソニックプラズマディスプレイの開発部門である技術部門では全体の 25%の作業時間を削減、33%の労働生産性向上を実現できることが判明し、3ヶ月のプロジェクト期間内に実行に移しました。



Cisco Consulting Services

本プロジェクトで仕事の仕方(ワークスタイル)を改革するにあたり、大きな効果をもたらしているのが、「バーチャル大部屋」です。同社が持つインタラクティブプラズマディスプレイとシスコの WebEx、ビデオ会議システム技術を使い、複数の物理的に離れた、開発部隊が常駐する大部屋を、常時接続し、あたかも、各大部屋がとらなりにつながったかのような共有空間を構築しました。「バーチャル大部屋」は、各々の大部屋に複数の 103 インチの超大型で高精細のインタラクティブプラズマディスプレイを設置し、WebEx、ビデオ会議システムで常時ネットワーク接続することにより、資料共有、共同の資料手書き作業、そしてビデオによる大部屋空間の共有を実現したものです。ここでは、プラズマディスプレイパネルの強みである大画面、高画質、高視野角を生かすことで、空間共有の臨場感を演出することができています。また、インタラクティブプラズマディスプレイの手書き機能を WebEx で接続することにより、遠隔地の大部屋間で共同の手書き作業を可能としています。これらの特徴から、インタラクティブプラズマディスプレイが、シスコが提言する「バーチャル大部屋」と高い親和性を持つことが明らかになりました。

「民生の TV 事業が非常に厳しい状況の中、我々はインタラクティブプラズマディスプレイを中心とした BtoB への事業シフトと業務効率の抜本的な改善により、事業の継続的な発展を目指しています。今回、「バーチャル大部屋」をはじめとするワークスタイル改革により、従来のリソースで幅広い業務推進が出来るようになり、大きな効果を上げることが出来ました」

白土 清
パナソニックプラズマディスプレイ株式会社
代表取締役社長

結果

作業の付加価値分析そして、作業の仕方の分析の結果、情報収集、資料共有、共同作業などで多くの価値を生んでいない時間を費やしており、これらの時間を短縮、効率化することで 33%という労働生産性の劇的な向上を実現できることがわかりました。

本プロジェクトでは、従来時間を費やしてきた作業を見直すとともに、「バーチャル大部屋」という新しい IT ツールを導入することにより、いつでも必要なときに必要な相手呼び出して、作業に取り掛かることができる、今までに無い生産性の高い仕事の仕方(ワークスタイル)に変えることができました。

白土 清 パナソニックプラズマディスプレイ株式会社 代表取締役社長は次のようにコメントしています。「民生の TV 事業が非常に厳しい状況の中、我々はインタラクティブプラズマディスプレイを中心とした BtoB への事業シフトと業務効率の抜本的な改善により、事業の継続的な発展を目指しています。今回、「バーチャル大部屋」をはじめとするワークスタイル改革により、従来のリソースで幅広い業務推進が出来るようになり、大きな効果を上げることが出来ました。」

次のステップ

パナソニックはバーチャル大部屋が、インタラクティブプラズマディスプレイ事業の B2B 市場展開にとって有用なものであることを確認することができました。この成功をパナソニック社内だけでなく、世界中の多くの企業と共有していく計画です。

©2013 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先:シスココンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>